

大人も子どもも予防接種を！

予防接種外来を開設します

高崎中央病院では4月から木曜日午前に予防接種専門外来を始めます。子どもはもちろん大人も対象です。最近麻疹の流行が話題になっていますが2回予防接種を受けていればまず心配ありません。予防接種をしっかり受けることでたくさんの病気にかからずに済み、命を救うこともできます。いままで通りの時間でも接種はできますが、ぜひこの予防接種専門外来を利用してください。

緑十字では3回の予定で大人の予防接種について解説します。

第1回、带状疱疹ワクチンのおすすめ

高崎市では助成制度がはじまります。

2024年4月から高崎市では高齢者の带状疱疹の予防接種に助成金を出すことになりました。

带状疱疹は日本で毎年60万人がかかっています。原因は水ぼうそうと同じウイルスで、このウイルスに初めて感染したときは水ぼうそうを発症します。水ぼうそうが治っても、このウイルスは脊髄から出る神経の根元などに一部残ります。普段は免疫力によってウイルスの活動が抑えられていますが、加齢、疲労、ストレス、紫外線、免疫抑制薬などで免疫力が低下するとウイルスが活性化して带状疱疹が起こります。

症状は、はじめに皮膚に痛みが起こります。かゆみ、しびれとして感じる程度から、ピリピリ、ズキズキ、チクチク、針で刺されたような痛みや、焼けるような痛みまで様々です。その後、水ぶくれを伴う赤い発疹が帯状に現れ、痛みが強くなり、眠れないほど痛むこともあります。ふつう体の左右どちらかに起こります。強い痛みや皮膚の症状は3～4週間ほど続きます。

抗ウイルス剤で治療しますが、治療が遅れたり、治療されないまま放置されると、頭痛や39℃以上の発熱も見られます。特に首から上で起きて重症になると失明や顔面麻痺、難聴を起こすこともあります。発疹が消えた後も痛みが残ることがよくあり、場合によっては「带状疱疹後神経痛」をおこし、半年～1年以上痛みが続くこともあります。

発症や重症化を予防するために開発されたのが「带状疱疹ワクチン」です。带状疱疹ワクチンを発症前に接種しておくことで带状疱疹にかかりにくくするほか、もし带状疱疹にかかったとしても重症化を予防でき「带状疱疹後神経痛」になりにくくする効果もあります。

予防接種には1回接種の生ワクチンと2回接種が必要な不活化ワクチンがあります。発症やその後の神経痛を予防する効果は不活化ワクチンの方が優れています(70歳以上でそれぞれ91%、85%)。また効果の持続性も優れています。これまで2回で4～5万円と価格が高かったのでワクチンを受ける人もまだ少数でしたが、このたび高崎市が費用の一部を負担してくれることになったの

で大分受けやすくなりました。筋肉注射で、2か月間隔で2回接種します。副反応は接種部の痛み(40%)や発熱(18%)があります。

高崎市の助成は接種当日に「満 50 歳以上の市民」及び「带状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる満 18 歳以上の市民(高リスク者)」で、市内の医療機関で接種した方になります。生ワクチンで4000円、不活化ワクチンは1回1万円(通常2回)を市が負担してくれます。(助成の方法はわかり次第お知らせします)

当院の価格表

予防できる病気	ワクチンの種類	接種回数	価格(組合員)/回	(非組合員)/回	助成金
带状疱疹	不活化ワクチン(シングリックス)	2回	19800円	22000円	10000円/回
带状疱疹・水痘	生ワクチン(水痘ワクチン)	1回	7040円	8800円	4000円